

世界で初めて自社で完結する 使用済みトレーから食品トレー容器へのリサイクル！ エフピコ方式の「循環型リサイクル」を学ぶ

2025 年 9 月 10 日、プラスチック容器包装リサイクル推進協議会（以下、プラ推進協）会員企業の若手メンバーで構成されている「プラっと探検隊」は、自社リサイクルを推進している(株)エフピコのリサイクル工場を訪問し、エフピコ方式のリサイクルについて学びました。

参加者は、山崎製パン(株)、雪印メグミルク(株)、花王(株)、マルハニチロ(株)、ライオン(株)、日鉄リサイクル(株)、日清食品ホールディングス(株)、大日本印刷株式会社、TOPPAN(株)、協栄産業(株)の隊員、メンバーおよび事務局の計 18 名。



エフピコ方式のリサイクル

1990年にリサイクルを開始。当時、米国のハンバーガーチェーンのテイクアウト容器がクラムシェルとよばれるタイプで、容器を発泡させるガスがフロンガスであったため環境破壊であるとされ不買運動がおこり、さらにごみ問題に発展して不買運動はしばらく続きました。その事案が日本に波及することに創業者は危機感を感じ、企業防衛のために回収・リサイクルをスタートしたそうです。

ポイントは！

①回収システムの構築：

自社物流があるので、帰り便を使用して効率的に回収

②再商品化の方向：

自社の製品である食品トレーにリサイクル（**水平リサイクル**）

③全国を網羅する生産・物流拠点：

扱う製品がかさばる特徴があり、物流費の高騰に対応するため、消費地に近いエリアで生産し、配送センター、選別センター、リサイクル工場を同じ敷地内に配置。

④お店を発着点とした「ストア to ストア」

お店で使用・販売した食品トレー、ペットボトルをお店で回収し、食品トレー、透明容器にリサイクルしてまたお店で使ってもらう。スーパーマーケットが中心の、お店を発着点とするリサイクルという営業戦略に位置付けられている。

みんなで行うリサイクル（4者一体でリサイクル）



お店を発着点とした「ストア to ストア」



関東リサイクル工場

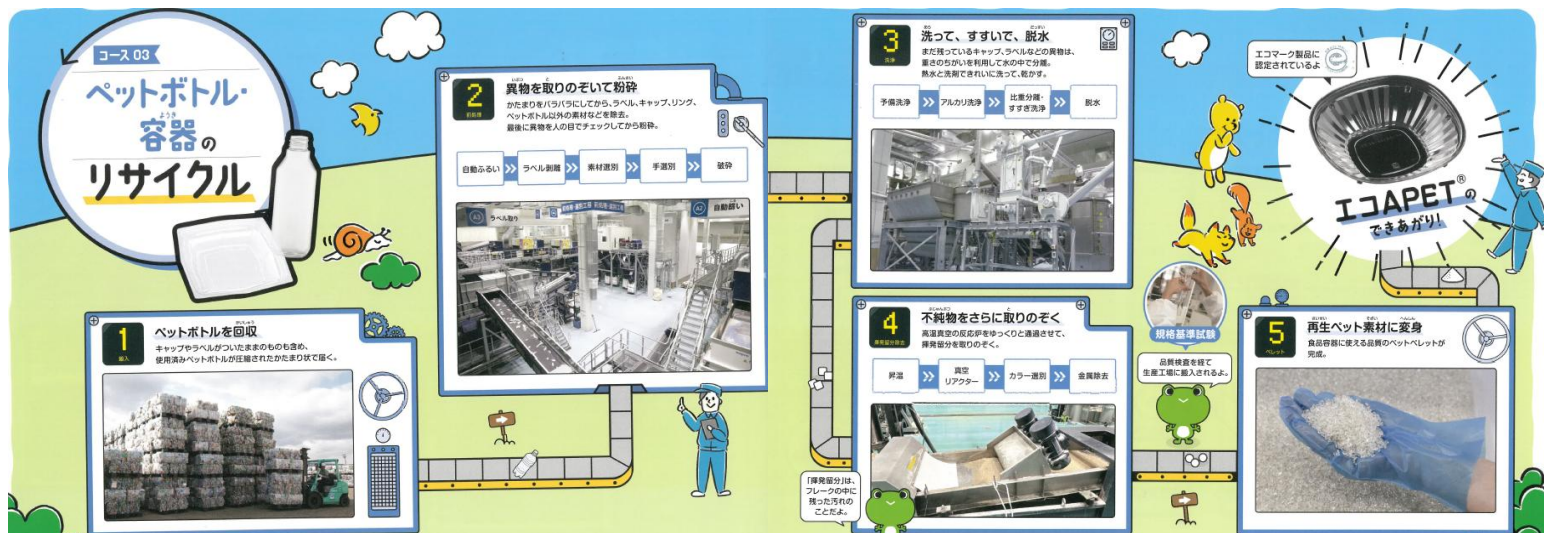
関東リサイクル工場では回収された使用済みトレーの選別から原料ペレットになるまでの工程を行う工場です。



関東エコペット工場

透明容器のリサイクル

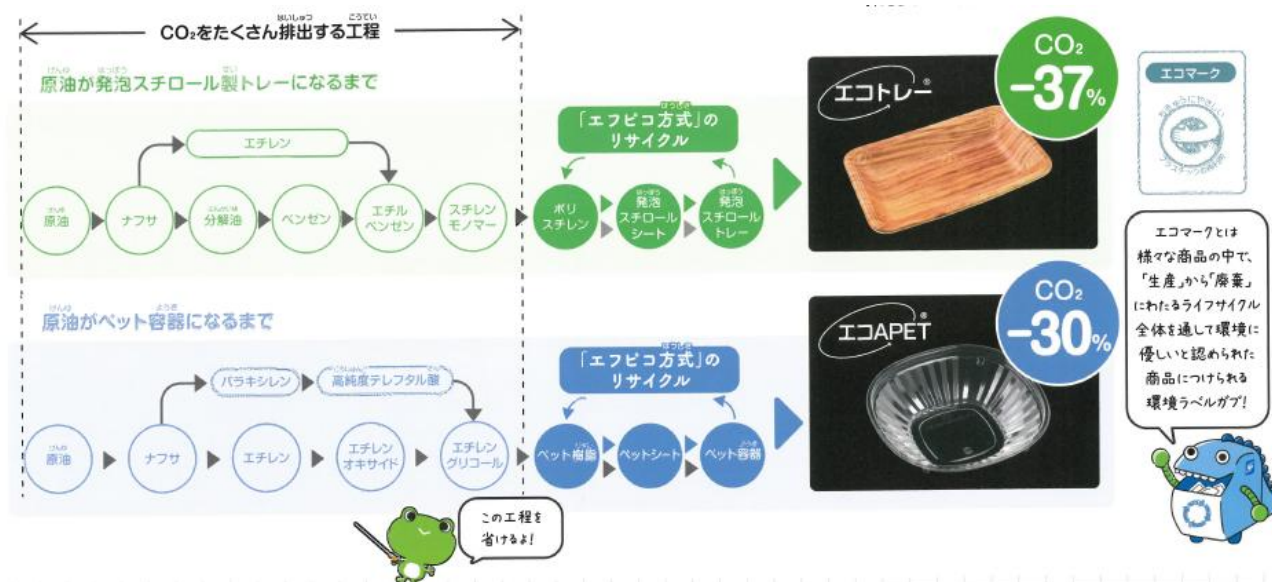
透明容器の素材選別をすることが難しかったので、発泡トレーのリサイクルから18年遅れた2008年から本格的に透明容器のリサイクルをスタートさせました。透明容器の素材は主に、PET、OPS、PPの3種類がありますが、人の目で判別できないため、光学式（近赤外線）識別選別機械を導入。透明容器の回収拠点は6,300店舗と少なく、なかなか量が集まらないのでPET素材の再生資源としてペットボトルの回収・リサイクルをスタートさせました。



リサイクルの CO₂ 削減効果は 30% ! 事業活動より削減量大 !

原油から食品トレーの素材となる原料を作る工程で排出される CO₂ よりも、回収トレーから再生原料を作るエフピコ方式のリサイクルは、CO₂ が排出される工程を省けます。

リサイクルしてできたエコトレーの CO₂ 削減効果は 30%。(株)エフピコが事業活動で出している CO₂ は 17,9 万トン、エコトレーなどのエコ製品によって削減できる CO₂ 削減貢献量は 20.9 万トン。事業活動より、CO₂ 削減貢献量のほうが上回っています。



障がいのある人材も活躍！

エフピコのリサイクル事業の主戦力として活躍しています。



お仕事の内容は



エフピコ方式リサイクルの効果

1990年から2025年3月までに行ったリサイクルの結果です。皆さんの協力が大きな数字となって大きな効果を生み出しています。



プラッと探検隊の驚き！

- ・ 30 年以上前から食品トレーのリサイクルを始めた先見の明と創業者の想い
- ・ リサイクル事業単体では赤字になるが、再生素材からエコ製品を製造する段階で付加価値が生まれることで、事業継続ができています
採算性を越えた企業の使命感と持続性社会の実現に対する先見性は、私たち自身の今後の方向性を考える上でも大きな示唆を与えてくれた
- ・ 自社での自主的な回収・リサイクルだから、トレーを作るためのリサイクルスキームを構築しているという前提（㈱エフピコでトレーにリサイクルできるものしか回収していない）
- ・ リサイクルに関して不純物を取り除く工程が複数あり、自社で製品として使える品質までリサイクル材の純度を上げる徹底ぶり
- ・ PET 素材を使用した製品は環境価値という観点だけでなく、持った時に容器の端で手を切らない工夫や重なった時に取りやすい工夫など機能面も充実
- ・ 障がい者の雇用とモチベーション向上の工夫
- ・ 食品工場と同レベルの衛生基準を満たしている
- ・ 消費者コミュニケーション。リサイクル工場の見学設備の充実や消費者が分かりやすい分別排出時の見分け方
消費者には PS と PP の違いが分からないから、「つまようじで刺さるトレーを回収する」と呼びかけ

隊員全員が、自社での取組みに置き換えて「自分ごと」として考え、たくさんの質問をさせていただきましました。

その都度、丁寧に明確なお答えをいただいた㈱エフピコ様に感謝申し上げます。